

令和 3 年度

大阪府立寝屋川高等学校

学校教育自己診断

結果と分析

実施日 令和 3 年 12 月

ホームルーム・Google Form で実施

実施対象 生徒 910／1031 (88.3%)

保護者 728／1031 (70.6 %)

教職員 37／63 (58.7 %)

生徒編

質問全16項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度は14項目（R2は14項目、R元は9項目）、90%を超えた項目について、今年度は7項目（R2は5項目、R元は1項目）だった。昨年度に比べると、全ての項目の平均値は向上している。

- 「自分は部活動に意欲的に参加していて、成長していると思う」「自分は学園祭や体育大会など学校行事に積極的で、楽しく参加している」の項目で肯定的な評価が約90%の高評価である。コロナ禍で学校生活でも制限の多い中で学習以外での面でも一生懸命取り組んで文武両道をめざしている姿がうかがえる。
- 「教育方針や教育計画を分かりやすく示している」がR2は83.1%、R元は78.7%だったが今年は87.6%になり、学力向上委員会の主導で教員が学習における目標設定について協議し、研究授業を継続しておこなっていることがこの評価につながっていると考えられる。
- 「学校は授業以外の講習や補習など、学力向上のための場を設けている」については昨年度が45.7%と厳しい数字で昨年の分析では「コロナ禍でのオンライン学習の充実が課題」としていたが、情報部や教務部のオンライン体制の充実や進路部主導での講習計画などもあり53.5%まで向上。コロナ禍前の52.1%を超えるものとなった。今後、オンライン授業のさらなる充実や補助教材等の導入等も含め、進路部、学力向上委員会が学年と連携して改善を進めていくことが必要である。
- 「自分で計画を立て、家庭学習する時間の確保」の項目が昨年度は72.4%、今年度は73.5%でありコロナでのオンライン授業や休校による課題の提示や生徒の主体的な取り組みがこの数値にあらわれたと考える。
- 「学校で命の大切さや、人権について学ぶことがある」の項目はR2が90.7%であったがR3は87.5%に下がっている。3年生の人権講演はコロナの影響で体験のみになるなど当初の計画通り実施できていないことが影響していると考ええる。
- 「学校生活は満足していて、入学してよかった」の項目は昨年とほぼ同じで90%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う」の項目は82.3%から87.5%と向上しており、コロナ禍において生徒への細やかな対応や行事での肯定感の高さが自己肯定感を高めることにつながっていると考える。
- 最も大きく向上した項目は「先生は生徒のことを真剣に考えてくれ、信頼している」。今年1年の様々な取り組みの結果がこの項目に表れている。

コロナ禍で様々な制限がかかる中、一定今まで以上に防災意識向上のための取り組みや基礎学力を引き上げ、自己実現につなげていくための工夫が必要である。

生 徒		令和3年度		令和2年度	
		割合	数値	割合	数値
合計	①	44.4%	3.287	40.8%	3.232
	②	43.2%		44.3%	
学校生活は満足していて、 入学してよかったと思っている。	①	56.8%	3.482	56.1%	3.460
	②	36.3%		35.9%	
学校は教育方針や教育計画を わかりやすく示している。	①	32.0%	3.170	29.8%	3.106
	②	55.6%		53.3%	
学校は授業以外の講習や補習など、 学力向上のための場を設定している。	①	53.5%	3.440	45.8%	3.314
	②	38.4%		41.5%	
学校で命の大切さや、人権について 学ぶことがある。	①	41.5%	3.265	49.8%	3.396
	②	46.0%		40.9%	
先生は生徒のことを 真剣に考えてくれ、信頼している。	①	43.8%	3.333	35.4%	3.183
	②	47.7%		50.3%	
自分で計画を立て、 家庭で学習する時間を待つように努力している。	①	32.4%	2.985	32.1%	2.980
	②	41.1%		40.3%	
自分は部活動に意欲的に参加していて、 成長していると思う。	①	61.7%	3.509	54.6%	3.439
	②	30.0%		36.3%	
自分は学園祭や体育大会など 学校行事に積極的で、楽しく参加している。	①	61.3%	3.508	51.5%	3.394
	②	31.0%		38.5%	
自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う。	①	43.0%	3.260	38.1%	3.155
	②	44.5%		44.2%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。

保 護 者 編

全 15 項目のうち「①と思う②どちらかと言えば思う」と肯定的に回答した保護者が 80% を超えた項目は、12 項目（R2 は 10 項目、R 元は 11 項目）であった。「子供の健康や安全の配慮」がわずかながらポイントを下げた。昨年度に比べると、全ての項目の平均値は向上している。

- 最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という項目では、強い肯定が 55.2%(R2 は 52%、R 元は 53%)、「先生は子どものことを真剣に考えてくれるので信頼している」の項目では強い肯定が 41.3%（R2 は 35.3% R 元は 34.9%）であり数値は向上しているがこれからも今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。
- 強い肯定が 20%未満の項目は「施設設備・学習環境」1 項目でこの項目だけはここ数年続いており、建物の老朽化を保護者から数多く指摘を受けている。また、「学習指導」については 22.5%（R 元は 20.1%）、「授業以外での学力増強の取組み」は 21.1%（R 元は 16.3%）と向上しているものの楽観できない結果である。生徒編にもあったように進路部、学力向上委員会を中心に学年と連携しつつ、補助教材の導入も含めて向上する手立てをおこなう。
- 保護者、生徒共に学校行事や部活動など積極的に参加することについて、肯定度は高いが、「保護者の期待や願いに応える」の肯定が 89.2%で昨年とほぼ同等の割合であるが 90%を超える年度もあったことから、90%に届いていないことを重く受け止め、引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にする取り組みを進めていきたい。
- もっとも大きく減少したのが「学校は子どもの様子を実際に見る機会を設けている」の項目。強い肯定が 20.8%（R2 は 27.1% R 元は 40.0%）でありここ数年で 20%減少している。コロナ禍で感染症対策を継続しつつ、可能な限り機会の設定を検討する。もしくは Web 上での発信の機関を設けるよう対応する。

保 護 者		令和3年度		令和2年度	
合計	①	33.0%	3.099	29.5%	3.062
	②	47.9%		50.9%	
学校は保護者の願いや期待に 応えようと努力している。	①	36.9%	3.241	33.2%	3.218
	②	52.3%		56.3%	
学校は子どもの様子を 実際に見る機会を設けている。	①	20.8%	2.775	27.1%	3.000
	②	43.4%		49.4%	
学校の学習指導によって、 学力が向上し満足している。	①	22.5%	2.834	16.5%	2.760
	②	45.7%		49.7%	
学校は子どもの健康や安全に 十分に配慮している。	①	34.2%	3.204	28.4%	3.121
	②	53.4%		57.7%	
学校は授業以外でも 学力増進のための教育活動に取り組んでいる。	①	21.1%	2.914	16.3%	2.768
	②	52.2%		48.8%	
先生は子供のことを 真剣に考えてくれるので信頼している。	①	41.3%	3.308	35.3%	3.211
	②	49.0%		52.5%	
施設設備の面で、 学校の学習環境は整備されている。	①	12.4%	2.344	8.6%	2.306
	②	31.4%		34.7%	
入学させて良かったと満足している。	①	55.2%	3.473	52.4%	3.451
	②	38.4%		41.0%	

数値は回答の① 4点② 3点③ 2点④ 1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。

教 職 員 編

肯定的な回答が80%を上回ったのは6項目で昨年より1項目増えた。また、昨年度を上回った項目は6項目、下回った項目は9項目であり厳しい結果となっているがこの結果を真摯に受け止め、改善を急務としたい。

R 元から3年連続で向上している「教授法や教材研究など自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている」授業力向上の研修などの結果であると思われる。

- 「教育相談」「人権教育」とともにやや数値が減少した。一昨年度より人権教育推進委員会を設置し、一定の理解を深めつつあるが、75%で十分とは言えない。特に教育相談体制は強い肯定は16.7%（R2は31.9%）と大きく減少していることは来年度に向けて大きな課題である。生徒に寄り添いながら、生徒の観察及び指導が組織として徹底されるように改善点を探したい。
- 「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」については、94%と高い数字となっている。授業力向上委員会の引き続き授業研究の取り組みを進めていく。
- 一方で、「生徒の学力伸長・進路実現」については強い肯定が13.9%。昨年より約10%も落ち込んでいる。「③どちらかといえばそう思わない④そうは思わない」が33.3%いることも組織として取り組む姿勢が問われている。
- 「生徒の健康・安全」は91.7%と高い評価となっていて2年連続90%を超えた。とくにコロナでの生徒への働きかけが影響しているかも知れないが、今後継続し徹底していくにはどうするべきかが課題となっている。
- 「各教科での学習指導計画・評価に対する十分な議論」では数値が落ち込んでいる。これは観点別評価が始まる来年度に向けて必要なことであるが、コロナ対応でなかなか議論の時間が取れないことも影響していると考えられる。来年度は教科内で時間をなんとか見つけて情報共有するべく取り組んでいきたい。
- 「学校の教育目標が共有され、全員で協働して、組織的に教育活動に取り組んでいる」では否定が36%。「学校は生徒の学力伸長や進路実現のために一体となって取り組んでいる。」では否定が33.3%になっている。組織としての一体感をもち、チームとして機能するために職員室の配置も含めた様々な検討課題にと組む必要がある。

教 職 員		令和3年度		令和2年度	
		割合	数値	割合	数値
全体	①	16.6%	2.964	22.8%	2.9242
	②	66.4%		65.1%	
学校の教育目標が共有され、全員で協働して、 組織的に教育活動に取り組んでいる。	①	11.0%	2.6944	18.8%	2.7917
	②	52.8%		50.0%	
学校にはPDCAサイクルに沿った改善思考が浸透している。	①	11.0%	2.6111	6.3%	2.3333
	②	47.2%		33.3%	
学校は生徒の学力伸長や進路実現のために 一体となって取り組んでいる。	①	13.9%	2.7222	23.4%	2.9362
	②	52.8%		48.9%	
学校は生徒の健康や安全に十分配慮している。	①	36.1%	3.2778	35.4%	3.3125
	②	55.6%		60.4%	
学校の教育相談体制は十分に機能している。	①	16.7%	2.8889	31.9%	3.1064
	②	55.6%		46.8%	
学校の人権教育体制は十分に機能している。	①	11.1%	2.8056	16.7%	2.9167
	②	63.9%		58.3%	
各教科において学習指導計画や評価について 十分な議論がなされている。	①	27.8%	3.0254	20.8%	3.0417
	②	61.1%		62.5%	
自分は指導内容・方法など工夫・改善をおこない、 生徒の意欲喚起に努めている。	①	47.2%	3.4167	25.5%	3.1915
	②	47.2%		68.1%	
教授法や教材研究など自己研鑽の時間や 生徒と向き合う時間が確保できている。	①	22.2%	2.75	10.9%	2.5
	②	38.9%		39.1%	
総合的に見て、寝屋川高校は	①	13.9%	2.9167	15.2%	2.9565
高い教育力を発揮している。	②	69.4%		65.2%	

数値は回答の① 4点② 3点③ 2点④ 1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。